

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400393		
法人名	社会福祉法人 慈愛会		
事業所名	グループホームひまわり(ユニット1)		
所在地	大分県日田市大字東有田字町ノ坪 2-4		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	平成22年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4470400393&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に、ゆったりとした時間の中で入居者のペースで過ごされたり、また、施設内の畑で四季折々の農作物もでき収穫も楽しみのひとつとなっています。入居者の皆さんとの味噌造りや梅干漬け等も四季を感じられる行事のひとつです。2ユニットを活かし合同での食事会やレクレーションが行われ、週1回講師によるカラオケ教室や四季を感じられるような外出や外食、年2回の家族会やクリスマス会では職員手作りの盛大なバイキングも行われ、入居者とご家族とのふれあいのひと時となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・年に2回開かれる家族会は、18名の利用者の全家族が参加して行われている。1家族から複数名参加することもあり、職員手作りの多くの料理が用意され、利用者、家族の楽しみの場ともなっている。
- ・日々のケアは、各ユニット毎に行われ、状況によっては、互いに支援している。両ユニットの協力で、事業所全体の行事については、行われている。
- ・食事は、職員が利用者の嗜好を配慮しながら献立を考え、毎食、各ユニットで手作りをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉の拠点として公正で開かれた施設運営に努めるとの理念の基に全員が理解し日々取り組み、また理念を深く理解できるよう会議等において話し合っている。	利用者の日々の生活の中に、理念にうたわれている「安全で安心した生活の保持」「自立支援」「地域福祉の拠点」に沿った職員のケアが活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り公民館祭り、地元の中学校の文化祭など催し物に参加している。	運営推進会議委員の公民館長から、地域行事の紹介、案内があり、様々な地域行事に参加している。実習受け入れ先の中学校行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として人材育成の貢献として地域の中学校の実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を行いそこでの意見を受けサービス向上に取り組んでいる	運営推進会議は2ヶ月に1度開かれていて、事業所からの行事や状況の報告が行われている。地域の情報交換も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員との連絡調整をしながら指導を受けサービス向上に取り組んでいる	運営推進会議には、毎回、市の担当職員と地域包括支援センター職員の参加があり、困難事例の相談など、問題解決に向け、協力して取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に行動され、身体拘束しないケアなど実践できている。	利用者の行動制限をすることなく、行きたい場所などの行動パターンを把握し、職員間での共有が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員間でも注意して防止に努めている		

事業者名:グループホームひまわり(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を通して学び、必要となった場合には活用できるよう支援をおこなう。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度家族の方へ説明し納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等相談窓口を設けている	家族会開催時、家族との個別面談の時間を設け、意見や要望ができるだけ出やすいよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話し合いの場を設けて職員の意見等の提案を聞き話し合っている	職員会議や毎週日曜日の出勤職員ミーティングで、事業所運営や利用者のケアについて発言する場がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働くことが出来るよう随時意見を取り入れ状況を把握したり給与反映や労働時間等の環境・整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は勤務年数に応じて選んでいる新人研修は現場でマンツーマンで慣れるまで行っている研修内容や研修報告も会議等で報告し閲覧できるようにしている。また、年1回外部講師による人権学習も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入、また九大ブロックにも加入し同業者との交流、研修会や相互訪問等の活動にてサービス向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にお会いして要望等を聞き入れ職員と話し合い安心して暮らせる関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時その後も家族の方からの要望を聞き入れるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談に来所された時点で早急な方には、併設の施設や他の施設の情報等を伝えている。殆ど入居希望の方が多く在宅の情報まで行っていない		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場になり介護し家庭で暮らしているような環境作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に情報提供や面会時には共にゆっくり過ごせる環境を作り家族と共に本人を支えあっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたり電話連絡等も行い関係が途切れないよう支援に努めている	隣接するデイサービスセンターに通所する知人と、事業所で継続的な交流を行ったり、馴染みの美容院に通う利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手伝い等一緒にしていただいたり外出等気の合うもの同士が手を取りあったり、また、利用者に他の利用者のことを手伝って頂いたり支えあう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院にお見舞いに行ったり家族の方へ電話して様子を尋ねたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を聞き入れ困難なときは話し合い納得してもらっている	利用者の発言や表情から、希望を汲み取り、状況に応じた支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで使っていた馴染みの物を居室にもって来て頂き落ち着きやすいように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、又少しでも様子が違う時には気づくようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの課題やケアの方法など職員で話し合い意見を出し反映するようにしている	介護計画のモニタリングは毎月行われ、見直しは設定した期間で行われている。状況変化時は、その都度、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報を職員間で共有し話し合いながら実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅生活となった時の為にまたは、現在在宅の方の為に認知症対応の為に短期入所が利用できる。		

事業者名:グループホームひまわり(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館長より情報を頂き地域行事の参加や消防団の方より災害時には、近隣の消防団の方が救助活動に駆けつけてくださるようになっていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主として、かかりつけ医に受診しているが事業所の協力医にも支援して頂いている	かかりつけ医や協力医の受診は、利用者、家族の希望で行われている。隣接する有料老人ホームの往診医が事業所を訪れ、相談支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者のちょっとした変化や異常がある時等は併設の施設の看護師に相談したり受診時に伝えるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、個人の情報を医療機関に提供しお見舞いを重ね医療関係者より情報を収集したり退院後の相談等や会議を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した方に対してその都度、家族に状態報告を行い、また、事前に緊急時の希望の医療機関を確認している	今年度、「事故・予防に関する説明書」を作成し、家族に説明を行っている。重度化した時は、できる限りの対応を行い、家族の希望する医療・福祉機関と連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命や吸引器の使用方法等を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間を想定した避難訓練を行い入居者を安全スムーズに誘導できるよう訓練を行っている。また、消防署の協力にて避難経路等の指導も受け、地域との協力では、近隣の消防団の協力を得られるようになっていく。	隣接する有料老人ホーム、デイサービスセンターと共に、避難訓練を行っている。市の委託で、災害時の地域住民の避難場所として指定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の家族や利用者に対しプライバシーについて話さないように配慮し介助時についても心がけている。	日常生活支援時にプライバシーの配慮を行っている。利用者の個人情報や守秘義務に関する認識も持っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを聞くようにして選択肢を提供し自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて好きなこと等をしてもらいその人らしくいられるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切にして声かけしながらお手伝いしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり好みを聞き嫌いなものには工夫をし一緒に準備等をしている。	三食とも、事業所職員が献立を考え、各ユニットで手作をしている。食材の買い物や下準備、片付けなど、利用者の参加もある。昼食時、休憩に入る職員配置が組まれており、皆で食卓を囲んだ食事がされていない。	食卓は、利用者と職員の語らいの場であると共に、食を通しての「気づき」の場でもあるので、職員と利用者が同じ食卓を囲んで食事をする環境作りを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いのある人には少しでも食べて頂ける様な声かけをしたり、自ら水分補給の出来ない方には状況に合わせて接種できるよう、摂取量を記録し支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は毎食後歯磨きを促し見守っている、介助が必要な方には介助し清潔保持に努めている。		

事業者名:グループホームひまわり(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり時間を決めてトイレ誘導を行っている	時間を決めてのトイレ誘導が行われている。個人記録に排泄記録が記載されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維が摂れるようなメニューや適度な運動に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく一人ひとりの希望に添って入浴が楽しめるように努力している	基本は、1日おきの入浴になっているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。利用者の身体状況に応じて、デイサービスの機械浴を取り入れている。入浴を嫌がる利用者が気持ちよく入浴できるよう、職員の対応の工夫も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団を干したり、室温調節の管理を行い快適に休めるように務めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を職員が理解しており服薬ファイルを作成しその都度様子を見て確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことをしてもらったりレクリエーションに参加してもらい皆で仲良く楽しく過ごせるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとり希望に添っては出来ないがなるべく外出し行きたい所に近いような形で支援している。	散歩や週3回の食材の買い出しへの同行、日用品の買い物など、日常的な外出の支援が行われている。遠方の祭りやお参り(かかし祭り・高塚まいり)に出かけ、日頃体験できないイベントの見学(クリスマスイルミネーション・花火)の企画も行われている。	

事業者名:グループホームひまわり(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、職員が管理して買い物等一緒に出かけた時は本人の買いたい物を買って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	普段は、家族の面会があり電話をされることはないが、本人の要望があれば取次ぎを行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々や野菜を植える等視界で感じていただき散歩等で身体で感じて頂いている。	それぞれのユニットの共有空間は、畳スペース・食事スペース・ソファが配置され、利用者がくつろげるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール等でコミュニケーションの場所を作ったり個々の時間は自室で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族やご本人の意思を聞き入れ馴染みの物等を生活に取り入れ落ち着いた生活作りをしています	利用者が居室を間違わないよう、入口に工夫がされている。部屋のベランダからは、外の景色が見渡せ、落ち着いた部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて、手すりや浴室トイレ廊下の整備を行い利用者にとって安全で使いやすいかを確認している。		